

## 頭 の 切 換

正 會 員 \* 濱 田 秀 雄

頭の切換といふ事が此處二、三年來しきりに云はれて居る。しかし具體的に頭の切換とはこのやうにすべきだと云つてはつきり示してくれる事は殆どない。大體に於て觀念論であつたり、又は形式論であつたりしてなる程と合點のゆくやうなものは殆どない。そこでこの切換について最近工場をめぐつて居てそれとなく感じた事を書いてこの文を読まれる諸賢の御参考にしたいと思ひます。

一例がある工場にとつて見ますと其處の工場ではある、一定の状態にある液體がある溫度とある濕度である一定の時間をおいてあるものをつくと云ふ一段階が存在する誰でも考へる事であるが其處には溫度計と濕度計とがある筈と思はれるのだがかかるものは一合も存在しない。そして其處にあるものは一人の技術屋である。そして一定の状態の液體があるものになるのを全部その人が勘に依つて定め一本の計器をも用ひずに完全にやつてのけて居る。つまり長い間の經驗に依つて既得した勘に依つて體を計器の代りに使つて居る。もし此處で此の技術者が頭の切換をやつて此等の計器のなし得る仕事を速に人間の勘からとりはづしてこれを計器に譲り勘は更に高度な現在の計器にてはなし得ざる部分に向つて進入するとなればその技術は更に高度な面に向つて進歩し得るし又その技術は計器のなし得る範囲内にては素人も速に達し得ると云ふ事になる。併し此處で考へさされる事はこの勘によつて物を定める事を多くの人が神技の如く考へ又其に對して多大の尊敬を拂つて居ると云ふ事である。そして計器と云ふものに頼る事に對しては輕視の念をもつて居ると云ふ事である。従つて技術者の中には自分と云ふものを中心に考へても又對外的に考へて見てもこの勘中心に進まざるを得ない人が相當あるのではなからうかと思はれる。

この點社會一般の人がこの物に頼る事に對して輕視しないやう頭の切換が必要であるやうに思はれる。

其處で讓ての人に御褒めしたい事は勘で一度獲得した技術は出來得るかぎり速かに勘以外のものにこれを譲り、勘は更に先を求めて進んで頂きたい事である。日本人は一般に勘がよくきくと云はれて居る。併しこの勘を譲る事をしないために技術の進歩を阻害して居るやうに思はれる。上記の例は工場のある部分についての話であるが、似た事が工場以外の色々な面にもあらはれて居る。土木の方でも最近機械化と云ふ事が盛んに云はれるやうであるが勞力のなし得る仕事を何時までも勞力ににぎらせてこれを機械に譲らない處にその原因があるやうに思はれる。

勞力が足りなくなつたからと云つて急に譲らうと考へて見てもそれは無理である。常に譲らうといふ氣持があつてこれを研究しその蓄積があつて始めて成果を得るのである。ほつこり機械を持つて來てさてこの機械は何が出来るのだらうかと考へる所に思案の無理があるやうに思はれる。そこで機械が仕事や勞力どうまくかみ合はない。この點機械化について一考を要する。